

## 〈算数科〉 4年

### 「大田区学習効果測定」結果の分析

- ・設問全体の校内平均正答率は73.8%であり、全国正答率73.7%とほぼ同じ結果となったが、ほとんどの設問においても前年度の正答率を下回っている。
- ・全国正答率を下回った設問では、長さ・重さや円と球、かけ算などは正答率が著しく低く、特定領域の理解が十分ではない児童がいると分かった。
- ・前述に関して、長さや重さの概念理解、円や球の性質や定義の理解が不十分であるということや、乗法の活用について定着が不十分であるという実態があるといえる。
- ・総じて文章問題の読解能力に課題が見られる。

### 重点課題

#### 〈知識及び技能〉

- ・四則の計算を正確にできるようにする。
- ・ある時刻から一定の時間後の時刻を求める計算を正確にできるようにする。
- ・長さや重さを推察して、適切な単位を使えるようにする。
- ・知識・理解の定着に個人差があるので、選択コースごとにより相応しい指導法を考える。

#### 〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・問題文を読み取り、正しく立式したり答えたりできるようにする。
- ・定規やコンパスを上手に活用し正しく三角形を作図できるようにする。

#### 〈学びに向かう力・人間性〉

- ・学習を積み重ねていくことで基礎基本を定着させていく必要がある。
- ・意欲的な児童が多い一方で、文章問題など応用的な課題に対して消極的になってしまう児童がいる。
- ・選択問題でも解答の空白欄が目立つ児童がいた。

### 授業改善策

#### 〈知識及び技能〉

- ・特にかけ算が定着するよう、朝のスキルアップタイムで100マスかけ算などに取り組みさせる。
- ・朝のスキルアップタイムや授業の終盤の時間を活用し、プリントで四則計算を練習させる。
- ・概念が身に付くように、具体物から抽象化できるようにスモールステップを踏んで指導する。
- ・身近にあるものの重さなどの量感をつかむために、十分に予想させ、計測する活動を取り入れる。
- ・日常生活の中でも基準となる重さや量、単位を意識する機会を増やして量感を育てる。また、身の回りにある物の重さを適切な単位と結び付けて考えるように指導する。
- ・習熟度別学習の時間を有効に使い、個に応じた課題設定や指導にさらに力を入れる。
- ・習熟がより必要な児童に対しては、補習教室の機会を活用し定着を図る。

#### 〈思考力・判断力・表現力等〉

- ・文章問題に多く取り組ませる。
- ・キーワードに線を引くなどして問題文を正しく読ませ、既習の学習をもとに考えて解く機会を増やす。
- ・絵図や線分図などを活用しながら、自分の考えを話したり友達の考え方を聞いたりすることを重視し、自らの力で筋道を立てて考えることにつなげていく。
- ・図形の処理において、基本的な作図技能の、日常的な活用機会を確保する。グラフ作成など、教科横断的に定規やコンパスの使用機会を増やす。

#### 〈学びに向かう力・人間性等〉

- ・朝のスキルアップの時間が授業の終盤にミニテストをして習熟を確かめる機会を増やす。
- ・身近な問題に置き換えて課題を提示するなど、課題提示を工夫する。
- ・応用的な課題に対しても具体物や身近な教材・教具を使って興味をもたせ、児童が主体的に取り組めるようにする。